



揚風

ときわ会新潟南支部
第51号
令和6年10月7日



本物に学ぶ

支部長 小山利幸
(白根北中・63年度)

「〇〇、背負い投げ！ 豪快に一本！！」

「〇〇、スマッシュ！ 強烈！！」

「〇〇、一投目！ 誰よりも高いやり！！」

パリオリンピックが開幕し、日本選手の活躍が続いています。リアルタイムでその活躍を観戦しようとテレビにかじりつき寝不足の毎日です。再放送や録画で観ることもできますが、リアルタイムの手に汗握る緊張感がスポーツ観戦の醍醐味です。選手のパフォーマンスはもちろん、表情や声、足音、スピード感、ジャンプの高さ、会場の雰囲気などを直接体感することで、より大きな感動とともに多くの学びにつながります。

オリンピック直前にNHKで放送された、パリ五輪が100倍楽しくなる特番「ぼくらはマンガで強くなった」を興味深く視聴しました。

バレーボールマンガ「ハイキュー!!」と男子バレーボール日本代表との熱い関係を描いた番組。日本では、様々なスポーツの人気マンガが生まれ、そのマンガがスポーツ界やアスリートに影響を及ぼしてきた。「ハイキュー!!」は、昨今の日本代表の活躍で人気急上昇中であるバレーボール人気の火付け役にもなった。

この番組で「ハイキュー!!」を取り上げるのは今回が2回目。1回目は2016年リオデジャネイロ五輪の年。この年日本男子バレーボールはリオ五輪出場を逃している。しかし、当時中学生・高校生で「ハイキュー!!」に触れてきた世代が、今回のパリ五輪で日本代表の軸として大活躍している。その男子日本代表選手6人が、「ハイキュー!!」には「自身の競技経験と照らし合わせて共感するシーンやセリフが多い」と話す。元日本代表選手

は、「今の中学生・高校生はバレーボールセンスに優れている。ルールやプレーだけでなく、戦術や状況判断の仕方まで『ハイキュー!!』から学んでいる」と話す。この10年で小学生男子のバレーボール人口は倍以上に増え、高校の男子バレーボール部数も増加している。

私も「ハイキュー!!」をよく読んでいましたが、マンガの世界のことと思う部分が多くありました。しかし、「ハイキュー!!」を読んでバレーボールに興味をもった子どもたちが、実際にバレーボールに取り組み、経験を積み重ね、同世代のトッププレイヤーや日本代表選手のプレーを見たり、一緒にプレーしたりすることを通してマンガの世界を現実のものにしています。

山田浩之ときわ会長は4月の評議員会で、「ときわ会の今を見つめ、何をすべきかという未来への構想」をもってほしいと話されました。

新潟南支部は、少人数の良さを生かした「顔の見える関係」を強みとしています。ただ、コロナ禍の影響もありオンラインの活用や懇親会中止の対応をとってきたためか、この強みが薄れてきたようにも感じています。そこで、今年度はオンラインの良さも生かしながら、対面での活動を取り入れる方向で支部活動の見直しに取り組んでいます。全会員を対象とした懇親会も復活します。

また、今年度は研修委員長を中心に研修体制の見直しを図りました。当支部ではカテゴリー別研修で各グループのチューターに管理職を充て、指導助言を行っています。今年度からこの研究成果をもとに、1年後、2年後の「教育研究発表会」に向けた支部代表者を選出し、継続した研究実践と発表者支援の体制づくりを行いました。

新潟南支部の強みを生かし、実際に相手の顔を見ながら、直接話を聴き、コミュニケーションをとることにより深い学びや会員同士のつながりを強くしていきたいと考えています。